サイバーセキュリティ最前線

米国発の最先端技術で「インターネット分離」を効率的に実現

数年前から「インターネット分離」という手法が注目されている。はたして、これはどのような手法で、どのような企業・団体に活用されているのだろうか。サイバーセキュリティのコンサルティングや提案を行う㈱セキュリティアの斉藤章副社長と髙須咲恵氏に、そのあたりの最新事情を紹介してもらった。

セキュリティアの斉藤副社長(右)と高須氏

重要なデータを守るための「インターネット分離」

数年前からセキュリティ業界で話題になっている「インターネット分離」という手法がある。これはセキュリティ対策のひとつであり、一般的なインターネットから専用ネットワークを分離することで重要なデータを守る手法のこと。たとえば、総務省は自治体にインターネット分離を使って住基データやマイナンバーをはじめとした重要なデータをシッカリと守ることを指針として強く指導しているという。

事ほど左様に昨今は多くの企業・団体にとって、重要なデータを守ることが課題になっている。こうした状況にあって、サイバーセキュリティのコンサルティングを手掛ける㈱セキュリティア（東京都中央区）の斉藤章副社長は「企業・団体によって、守りたいもののレベルや種類は多岐にわたる。だからこそ、それぞれの事情に合わせたコンサルティングや提案をしなければならない」と話す。

だが、その一方で依然として中小企業の多くがセキュリティ対策を疎かにしているという。「セキュリティ対策に関するルールすらないことが多く、クライアントごとにカスタマイズしたマニュアルを提供するケースもある」と同社のセキュリティアドバイザーを務める髙須咲恵氏は話す。具体的にはパスワードの適切な設定方法、飲酒時に端末を持ち歩かないなどの紛失対策、メールの内容と送信先の確認を行うなどの誤送信対策といったポイントを示しているそうだ。また、システムについては不用意にWi-Fi接続をしないこと、ウイルスに感染してしまった場合の報告・相談の徹底などを強調しているほか、同社が相談窓口などの業務を引き受けることもあるという。

最先端技術でインターネット分離の先へ

こうしたなか、同社が積極的に提案しているのが米国発のセキュリティ製品「Bromium(ブロミアム（現HP SCE))」だ。ブロミアムの日本総代理店を務める㈱ブロード（東京都千代田区）との協業で早期から取り組んできたという。「仮想技術を用いたこの製品は、PC本体から隔離された仮想環境でウェブサイトの閲覧や文書ファイルを安全に開ける」ことが特徴。使い勝手がいいと評判だが、そのほかにもコストを抑えられるという利点もある。「ブロミアムのほかにもインターネット分離のためのセキュリティ製品は存在するが、その大半はネットワーク全体にシステムを入れなければならないため、導入費用が膨大になる。その点、ブロミアムはPC単位で導入できるし、操作感も変わらないため、自治体などでもブロミアムをあらためて検討しているところが増えている」と斉藤副社長は話す。

コロナ禍でテレワークなどが一般化し、セキュリティへの注目度はますます高まっている。そうしたなか、自治体でも企業でもブロミアムがセキュリティの要になる可能性は大きい。セキュリティの見直しや強化を検討している方はブロミアムを取り扱っているセキュリティアやブロードに問い合わせてみるといいだろう。

もう無駄な時間と費用は「0」にしましょう

Bromium®
［ブロミアム］

おかげさまで Bromium は
HP Sure Click Enterprise に進化しました

エンドポイントのサイバー対策に関する費用や専門家は、もう必要ありません。
100%※防御し、レポートします。是非ブロードにお問い合わせください。

※2013 年以降、Bromium は推計 20 億以上の MicroVM が実行されましたが、侵害報告件数はゼロです。(Bromium 社調べ)

詳細は［BROAD Security Square］で … https://bs-square.jp/columbus

株式会社ブロード
〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-30 サウスヒル永田町7F
TEL: 03-6205-7463（代表）